

大学院コンサートシリーズ・名手と共に

「青柳晋氏を迎えて」交流演奏会

with東京藝術大学

山下彩恵 (藝大院1)

F. ショパン

マズルカ 第36番 イ短調 作品59-1

舟歌 作品60

田口美優 (洗足院2)

F. ショパン

スケルツォ第2番 変ロ短調 作品31

八部陽菜 (藝大院1)

F. ショパン

スケルツォ第4番 作品54 ホ長調

寺島梨湖 (洗足院1)

F. ショパン

ロンドハ短調 作品1

マズルカ 第13番 イ短調 作品174

青柳晋 F. ショパン

ピアノソナタ第3番 ロ短調 作品58

2022年11月5日(土)

16時開演(15:30開場)

シルバーマウンテン 2階

△ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

== PROGRAM ==

八部 陽菜 (藝大 院 1)

F.ショパン/スケルツォ第4番 作品54 ホ長調

山下 彩恵 (藝大 院 1)

F.ショパン/マズルカ 第36番 イ短調 作品59-1

舟歌 作品60

寺島 梨湖 (洗足 院 1)

F.ショパン/ロンド ハ短調 作品1

マズルカ 第13番 イ短調 作品17-4

田口 美優 (洗足 院 2)

F.ショパン/スケルツォ第2番 変ロ短調 作品31

～ 休憩 ～

青柳 晋

F.ショパン/ピアノソナタ第3番 ロ短調 作品58

■ Program Note

■ F.ショパン/スケルツォ第4番 作品54 ホ長調

1842年、バラード第4番や英雄ポロネーズといった傑作とともに、ショパンの作曲家としての最盛期に書かれた作品である。

スケルツォ(邦訳:諧謔曲)は、冗談、気まぐれを意味するイタリア語を語源とする。それまで交響曲やソナタの中の1つの楽章に用いられていたスケルツォを、ショパンは独立したピアノ作品として完成させた。ハイドンやベートーヴェンが、メヌエットの代わりとして用いたスケルツォのA-B-Aの三部形式を踏襲しながらも、ソナタ形式を思わせるようなより複雑な構造を持ち、感情的、情緒的な表現が盛り込まれている。

第4番は、全4曲あるスケルツォのうち唯一長調で書かれた作品であり、全体的に明るく軽快で、幸福な雰囲気になっている。レチタティーヴォ風のフレーズに誘われるように始まる中間部では、舟歌を思わせるリズムに支えられ、哀愁に満ちた美しい旋律が歌われる。この旋律がゆっくりと昇っていき、頂点に達した瞬間 竜巻のようなパッセージに飲み込まれ、トリルの波の中から輝かしく第一主題があらわれる再現部への流れは見事である。

八部 陽菜 (藝大 院 1)

■F.ショパン／マズルカ 第36番 イ短調 作品59-1

3つのマズルカ Op.59は、死の4年前、恋人ジョルジュ・サンドのノアンの館で作曲された。第1曲はイ短調の哀愁漂う曲調。ポーランドの五大民族舞曲の一つであるクヤヴィアクのリズムで書かれている。グラデーションのような巧みな移調、舞曲を踏襲しながらもオリジナリティが融合された、ショパンの円熟した作曲技法が発揮された作品である。

■F.ショパン／舟歌 作品60

舟歌は水の都ベネツィアのゴンドラ漕ぎの歌に由来し、性格的小品として流行しさまざまな作曲家が取り上げてきた。これをショパンは大きな規模をもって主題労作しながら、きらめく瑞々しい水面や寄せては返す波、光と影を緻密に描写しているから見事である。舟歌が作曲された頃にはジョルジュ・サンドと破局を迎え、さらには病状は悪化の一途をたどっていた。失意の底にある中、ショパンは海への憧れと叶うことのない未来への希望を願う。嬰へ長調という調性はまるで俗界を離れ空想の世界にいるようだ。8分の12拍子で動き出す左手のゴンドラにのせて、ふたりの愛の歌が紡がれていく。

山下 彩恵（藝大院1）

■F.ショパン／ロンド ハ短調 作品1

この曲はショパンがピアノを学びながら、古典的な形式にしたがって書いた作品である。

まだ柔軟性もなく、書きなれない硬直した面は多々あるように思われる。

モーツァルト、フンメル、クラーマーなどの影響を受けているが、ショパン自身の発想も随所にあり、スケールをゆったり大きくとって作曲した大曲である。

作曲と同時にワルシャワで出版された作品だが、当初はまだ作品番号はつけられておらず、記念すべき作品1の番号が与えられたのは1835年にベルリンで再出版された時である。

ショパンとしばしば二重奏を楽しむ間柄だったルイザ・ドゥ・リンデ夫人に捧げられている。

4小節の序奏のあとに登場するハ短調のロンドの主題は軽やかなリズムに乗った華やかなもので、トリルと付点音符に飾られている。

ハーモニーはシンプルだが、澁刺として生気に溢れ、瑞々しい魅力にみちている。

各旋律のつながり方や繰り返しの技巧的な熟練を欠く面はあるが、ピアノ音楽特有の要素も多く取り入れられ、随所に美しい旋律が盛り込まれている作品である。

■F.ショパン／マズルカ 第13番 イ短調 作品17-4

ショパンがポーランドからパリに移って最初に書いた作品である作品17の4つのマズルカの中でも屈指の傑作として知られている。

「小さなユダヤ人」の名で呼ばれることもあり、そのユダヤ人が酒に酔った農夫と口論をしたという場面を描いたものだと言われている。

音数が少なくシンプルな曲だが、左手の和音は小刻みかつ微妙に変化しており、その微妙な和声が深い陰影を作る名曲である。

憂いを含んだ開始部分から六の和音を含んだ一時終止、半音階の滑り、非和音を經由する装飾音など、危うい展開が続き寒々とした雰囲気をもっている作品である。

寺島 梨湖 (洗足 院1)

■F.ショパン／スケルツォ第2番 変ロ短調 作品31

スケルツォとはイタリア語で『冗談』『ユーモア』を意味し、ショパンのスケルツォの音楽的な特徴としては速いテンポと4分の3拍子、3部形式を基本的な構造としており、形式はベートーヴェンから受け継いだ物である。スケルツォ2番は1837年にパリで作曲された。この頃のショパンは、恋人マリア・ヴォジンスカとの恋の終わりであり、ジョルジュ・サンドとの交際が始まりつつある時期であった。この曲のドラマティックな感情の起伏の大きさには、ショパン自身の失恋、恋愛などが影響し、様々な深刻な情緒が表現されている。

田口 美優 (洗足 院2)

■F.ショパン／ピアノソナタ第3番 ロ短調 作品58

1844年に、ノアンにあるジョルジュ・サンドの住居で作曲された。ショパンはピアノソナタを3曲作っており、円熟期の中でも最大の傑作であり、頂点をなすものの一つとして位置付けられているのが本作である。”ソナタ”というのは主題とそれに基づく展開部があり、主題の再現を経て曲を締めくくる(提示部、展開部、再現部)と言う形式のことを言う。

第1楽章 Allegro maestoso 変ロ短調

提示部はロ短調から始まり、冒頭の第1主題はこの作品のモチーフとして度々使われる。そして第2主題は穏やかで甘美なニ長調の旋律で始まり、嬰へ短調で終わり、提示部の集結部はニ長調で詩情豊かな旋律で締めくくる。展開部は第1主題のモチーフを用いながら、極めて不安定な調整で書かれている。展開部が終わり第2主題はロ長調で再現される。そしてロ長調のまま再現部は締め括られる。

第2楽章 Scherzo, Presto ma non troppo 変ホ短調

3部形式で書かれたスケルツォ楽章である。ソットヴォーチェかつ、流麗で煌びやかな軽いレグジェーロで右手が絶え間なく動き回り、即興的でユーモア溢れるメロディーが特徴的である。

第3楽章 Largo ロ長調

夜想曲風の甘美な楽章で、前楽章でのスケルツォとトリオの調関係が、第2楽章と第3楽章の間にも応用されている。最初に荘重な序奏が出てきた後、静かに語り掛けるようなカンタービレの主題が歌われる。中間部では目まぐるしく転調し、付点音符のリズムを基調に音楽が運ばれていく。途中で現れる絶妙な転調はショパンならではのもので、ショパンが本当に心を開いたような、静かな安らぎにみたされる作品である。

第4楽章 Finale, Presto ma non tanto ロ短調

重厚さを持った短い序奏に続いて、風雲急を告げるような情熱的な楽想を持ったロンド主題が歌われる。ロ短調で始まり、ロ長調、ホ短調、変ホ長調など様々な転調を繰り返し、コーダで力強くロ長調に転調し高揚感をもって締め括られる。オクターヴで力強い和音が鍵盤を駆けめぐって始まる激情的なフィナーレで、ショパンの底力、精神的な逞しさがよく表れている作品である。

青柳 晋

■ Profile



八部 陽菜 (藝大 院 1)

愛知県出身。

第 13 回中部ショパンピアノコンクール金賞及びカワイ賞。第 21 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA ソロアーティスト部門 アジア大会 銅賞。市川市文化振興財団主催 第 35 回新人演奏家コンクール 優秀賞。

2015 年 愛知県芸術劇場にてセントラル愛知交響楽団と協演。2020 年度 大田区文化振興協会フレンドシップアーティスト。

これまでに ピアノを原田雅美、馬場マサヨ、中根浩晶、廣瀬啓子、多美智子、青柳晋の各氏に、フォルテピアノを小倉貴久子氏、室内楽を三界秀実、津田裕也の各氏に師事。愛知県立明和高校、東京藝術大学を経て、現在 同大学院音楽研究科修士課程 1 年在籍中。



山下 彩恵 (藝大 院 1)

2000 年生まれ、大阪府枚方市出身。京都市立京都堀川音楽高等学校、東京藝術大学を卒業。現在、同大学院修士課程 1 年に在学。

第 1 回スタインウェイコンクール in Japan 全国大会第 1 位。第 68、70 回全日本学生音楽コンクール大阪大会第 2 位。第 26 回日本クラシック音楽コンクール 最高位。

第 30 回京都芸術祭音楽部門 亀岡市長賞。一般社団法人京一商西京同窓会奨学生。カワイランチタイムコンサートをはじめとする演奏会やリサイタルに出演。これまでにピアノを筒井由子、田中美鈴、福井尚子、岡部悦子、青柳晋の各氏に、フォルテピアノを小倉貴久子氏に師事。



寺島 梨湖 (洗足 院 1)

熊本県出身。3 歳よりピアノを始める。

第 8 回ヨーロッパ国際ピアノコンクール全国大会高校生の部、金賞及び審査員特別賞受賞。第 10 回日本バッハコンクール全国大会金賞。第 19 回九州音楽コンクール銀賞。大学在学中、2019～2021 年度ピアノコース特別選抜演奏者に認定。ジェローム・グランジョン、ルイス・フェルナンド・ペレス、グヤーシュ・マルタ、シャーンドル・ファルヴァイ、ヴィレム・ブロンスの各氏の特別レッスンを受講。これまでにピアノを谷口昌子、塩津貴子の各氏に、現在ピアノを鳥羽瀬宗一郎、浦壁信二の各氏に師事。



田口 美優 (洗足 院 2)

広島県出身。洗足学園音楽大学ピアノ科、卒業。第1回洗足学園学内コンクール第3位。第77回福山音楽コンクール本選ファーストクラス受賞。第28回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。2018年、2019年度特別選抜演奏者認定。これまでにピアノを浅尾晶子、宮久恵、三谷智子の各師に師事。現在ピアノを江崎昌子氏に師事。



©Photo by Ayane Shindo

青柳 晋

桐朋学園を経てベルリン芸大に留学。ロン・ティボー・クレスパン、ハエンコンクールなどで優・入賞。

第28回ショパン協会賞受賞。

海外での演奏経験も豊富で

録音多数、内外のオーケストラと数多くの共演を果たす。

東京藝術大学教授。